第２回学長と学生・若手教職員との対談

１　日　時　　平成２５年１１月７日（木）１３：００～１４：３８
２　場　所　　本部棟６階　第二会議室
３　出席者　　森田学長、許理事（企画・総務担当）
若手教員１０名（教育学研究科、社会文化科学研究科、自然科学研究科、保健学研究科、環境生命科学研究科、医歯薬学総合研究科、法務研究科、岡山大学病院、資源植物科学研究所、異分野融合先端研究コアの若手研究者各１名）
４　対談要約

許理事　森田学長は、日頃皆さんと親しく接する機会がないので、学生や若手の教職員の皆さんの生の声を聞いて、今後の大学運営に生かしていきたいという考えをお持ちである。若手教員の皆さんから、大学への希望や困っていること、日々感じていることなどを話していただき、同時に学長のお考えも伺い、フリーに意見交換をする場にしたいので、何でも自由に話してほしい。

森田学長　学長になって２年半が経った。本日は、いろいろな分野の方がおり、話を聞くのを楽しみしている。これからの岡山大学を背負っていく皆さんのご意見を伺い、大学運営に役立てたい。

（若手教員から、自己紹介を兼ねて、大学の良いこと・困っていることなどについて発言。）

教員　岡山大学は、多分野に渡って総合的な大学である。私の研究領域は、法律・不動産・工学など多岐にわたっているが、岡山大学で驚いたことは、専門書がどこかの研究室にはあって、その研究室を訪ねると研究が進んでいくのが嬉しく、研究をするのによい環境である。困っていることは、着任して２年目でまだ環境に慣れていないことや状況を把握していない部分も多くあり、事務処理にしても教育面や研究面で、誰に相談をしたらよいのか分かりにくく、戸惑うことがある。

教員　全学の電子ジャーナルの委員会を担当しているが、円安で電子ジャーナルの予算が逼迫していたところ、学長をはじめ様々な方々の配慮で、電子ジャーナルの維持に対応いただき、研究を円滑に進めることができ、ありがたく思っている。経済学部の一番大きな講義室が老朽化していて、大学生も不満を持っているが、それ以上に、オープンキャンパスで大学を訪れた高校生が、古い講義室を見て、大学に対するイメージを悪くするのではないかと心配している。

許理事　経済学部は耐震改修工事を行ったが、その中には入っていなかったのか。

教員　全ての部屋が改修されたわけではなく、一部分を順番に行っており、今回は耐震改修工事に入っていなかった。

許理事　どのような状況で、いつ頃手当することができるのか確認する。

教員　研究資金の約８割を外部資金に頼っていて、外部資金が途絶えたときに、これまで

の研究の質を保つことができるか不安がある。研究環境については、学科のスタッフも活気があって、研究は盛り上がっており、研究面での不満はない。教育に関しては、今年准教授に昇進したが、教務委員の仕事が加わり、カリキュラム策定などの重責を負い、大変である。研究成果の発信については、岡山大学は他大学と比べて広報がしっかりしていて、研究成果を発表すると、よく新聞記事に取り上げてもらえる。

許理事　研究費の確保が不安になることは分かるが、運営費交付金で研究費を賄うことは限りがあるので、基本的に研究は外部資金でやってもらう。もちろん、大学として外部資金獲得のための支援はしっかり行う。また、科研費だけではなく、他の民間資金の開拓を進めていきたい。先導的な研究を行われているので、よい例を示して、全体を引っ張っていってほしい。

教員　ラドン効果の研究をしている。ラドン含有量が豊富な三朝温泉は鳥取県にあるが、岡山大学には三朝温泉に施設があるので、順調に研究を進めることができている。教育面では、異分野融合型の低線量の教育プロジェクトに参加している。

教員　女性教員を増やす取組として始まったウーマンテニュアトラックの２期生である。ウーマンテニュアトラックの取組は、女性研究者を増やすという意味で良い取組であるが、立ち上がった時に決まっていないことが多く、その都度、制度を整えている状況である。

許理事　ウーマンテニュアトラックは、起こったことに対応する時に、規則を定めるに当たっては、できるだけ当人に不利にならないようにサポートできるよう制度設計に努めているが、所属している側からはどう感じるか？

教員　私自身がそのような局面になっていないので、感じにくい部分はあるが、相談する人に、ダイバーシティの人やメンターの先生がいる。また、同じ時期に入った教員との繋がりもあるので、相談しやすい環境だと思う。

教員　何でもやらせてもらえる環境で、充実している。困っていることは、スタッフ不足である。一緒に仕事をする仲間がいれば、役割分担をして効率よく診療・研究・教育ができると思うが、スタッフが不足していることで、全てが中途半端になってしまうことを危惧している。患者が満足できる医療を提供できているのか不安がある。教育面では、e-Learning やデバイスを使って、教員が教育に力を入れなくてよい仕組みを作る傾向になっている。大学で学ぶことを学生に喜んでもらう環境を作ることが重要だと思う。

許理事　IT を利用することは、ややもすると手を抜くことにもなりかねないので、教育システムの全体を見て、力を入れる部分は力を入れ、IT を活用する部分と整理して、よいシステムを作り上げ、同時に学生が学ぶ意欲をどう喚起していくか、考えていきたい。

教員　弁護士で、実務家教員として採用された。弁護士研修センターに設置された「のぞみ法律事務所」で新人弁護士の教育を行っている。法律相談はもっと利用していただけたらと思う。以前は、医療機関側の代理人として弁護士活動を行っており、岡山大学病院の顧問も務めていた。岡山大学には、法学部や法務研究科があり、医事法を研究されている教員もいるが、岡山大学病院が公的な面から、その教員を利用されていないと思う。もっと横との繋がりを上手くしたら、強い岡山大学を作ることができると思う。例

えば、岡山大学病院の中だけの枠に留まるのではなく、岡山県全体あるいは全国の医療機関と協力して、一つの問題に取り組み、そのことに法学系の教員に協力いただけると、いろいろなことができるのではないかと思う。

教員　電子カルテが非常に使いにくい。何をするにしても時間がかかるのは困る。電子カルテを一般的なレベルにしてもらえればと思う。他の病院の電子カルテでは、これだけのことができるのかと驚くものがある。

森田学長　電子カルテの問題は承知している。昔は研修医が多くいて、研修医が入力していたが、今は研修医が少なくなって、医師が診療と記録の両方をすることになって、煩雑になっている。外部の病院では、電子カルテに記録をするためのメディカルクラークがいるのではないか。

教員　メディカルクラークをきちんと導入している病院は少ないと思う。

許理事　電子カルテの件は、病院長に伝える。

教員　研究所に所属している。全国的な共同研究拠点として、活発に研究を行っている。問題点として、研究所であるため、大学院生が少ない。

許理事　大学院生を増やすための取組はあるか。

教員　研究所として大学院生を増やす取組は行っているが、岡山大学から研究所へ行く大学院生が少ない。

教員　岡山大学に入学して、飛び級を２回した。とてもよい制度であるが、大学は中退扱いになり、不安定であるため、利用する人は少ない。研究組織に所属していて、正式な配属の学生はいないが、学内のいろいろな教員と共同研究を行っていて、共同研究先の学生が研究室に来てくれるので、研究を通した教育で貢献できていると考えている。優秀な学生を育てていきたいと思っている。また、日本発の新しい材料を作るベンチャー企業を設立している。

許理事　飛び級を２回されていて、あまり定型的ではない生き方をやってみる、形を破るような考えは大切だと思う。

許理事　教員のみなさん一人ずつからお話しを伺った。続いて、せっかくの機会であるので、学長に聞きたいこと、言いたいことがあれば、話してほしい。

（若手教員から、学長に対する質問や要望を発言し、意見交換。）

森田学長　岡山大学を卒業した方だけではなく、他大学を卒業された方もいるが、岡山大学に来ようと思ったきっかけは何か。

教員　そこに籍があったから。学科で、どのような研究をするというビジョンがあれば、それに合った人事となる。

教員　私達の組織では、教授がいないので、主導権を持って研究ができる独立した研究環境が魅力で来る人がいる。

森田学長　将来を嘱望された人が他大学へ引き抜かれると寂しい。岡山大学に残って研究

を伸ばす、あるいは引き抜かれない環境は何か。
教員　教授を目指すには、上司が若ければ出て行かざるを得ない。
教員　そのような意味では、研究室に教授が一人だけであるのが問題か。
許理事　教授や准教授がどういうバランスで存在したらよいのか、分野によって異なる。医学系では、実験をするのに研究室のマンパワーがたくさん必要で、みんな教授になると誰も実験しなくなるが、文系は皆一人一人が研究をしているイメージがある。
森田学長　分野によって教授の選考の仕方が違う。自分で研究してマネージメントできることが大切。
教員　科研費獲得キャンペーンは、科研費に着目しているのか。文系の教員の中には、科研費はいらないという人もいるが。
森田学長　自分の研究費は自分で獲得してもらいたい。大学の教員は、比重はともかく教育・研究・社会貢献はやってほしい。小額でもよいから研究を行おうと思えば、研究費獲得に応募してほしい。また、大学ランキングでは、研究費の獲得状況が数値化され、評価される。
教員　学部の研究推進委員になっていて、学部の中で科研費の取り方の講習会を行っている。紙と鉛筆があればよいという教員もいるが、大学には間接経費も入るので頑張って研究費を獲得してくださいと言っている。
森田学長　みんなが研究費を獲得して、アクティビティを上げていただきたい。
許理事　研究費を申請すると、審査という形で必然的に第三者評価が入る。研究を行いながら、新しいことを発見して、学生に教育をすることは大切。また、研究の質も大切。
教員　教育の業務があるため、研究を進めるために必要な海外でのヒアリングやアンケートなどの社会調査をする時間が取れない。１週間ほどの海外調査の許可を求めることが言い出しにくい雰囲気がある。
許理事　クォーター制にすると、研究の進め方はどうなると思うか。
教員　私の研究の場合は、海外調査へ行きやすくなると思う。
教員　クォーター制の間に、講義がないことで委員会を入れられる可能性があるので、委員会の仕分けをしてほしい。
許理事　繰り返し委員会の数を減らすように言っているが、新しい取組があっても減らすことは難しいようで、委員会の数はなかなか減らない。
森田学長　委員会の問題はガバナンスの問題もあって、みんなで責任を取り合うというのがある。一人のリーダーに任せると物事は進むが、暴走する恐れもあるので、そのチェックシステムが難しい。
教員　他大学の同世代の人達と話をすると、私の所属する研究科は、若手教員が筆頭になって国際誌に論文を書くことが少なく、アクティビティが低いのではないかと思う。博士課程の学生が影響を受けて、標準修業年限内に修了できる人が少ない。研究科も問題を認識しているが、それよりも学部教育に力を入れようということになって、問題を先送りしているように感じる。
許理事　それぞれの研究科の自助努力が必要であるが、若い教員の間で渦を作っていって

もらえればよいと思う。

森田学長　研究科のレベルをあげるには、時間と伝統が必要であると思う。

教員　宿舎問題のことは、トップダウンの弊害である。小学生を抱えている教員は、子供の教育環境を考えて、慌てて大学近くに家を購入した。トップダウンはよいことではあるが、正しい方向へ導いていただきたい。

森田学長　大方針は執行部で決めたが、アナウンスの仕方に問題があり、反省している。大方針と実際のやり方に間違いがあった。実際のやり方で、現場の人の意見を聞いて、現場の人が困らないようにしなければならないにも関わらず、結果として誤ったメッセージが伝わったことを反省している。

森田学長　本日は、いろいろな分野の先生方から貴重な意見を伺った。みなさんの意見を大学運営に取り入れていきたい。本日はありがとうございました。

※８月５日開催の第１回「学長と学生・若手教職員との対談」において、学部生の皆様からありましたご意見等については、各担当に連絡等を行い、検討を行っております。